

[特集2] 情報教育想定質問集

① GIGA スクール編	1
② ICT 活用編	11
③ 想定される指導の場面	17

© 2025 TOKYO ACADEMY
本書の複写・スキャン・デジタルデータ化等の複製
および複製物の転売は法律で認められた場合を除き
違法のため禁じます。

① GIGAスクール編

- ① 「GIGAスクール構想」という言葉を知っていますか。そのねらいと内容はどのようなものですか。

応答のポイント

- ①高速大容量のネットワーク環境（校内LAN）の整備をする。
- ②義務教育段階の全学年の児童生徒1人1台端末環境を整備する。
- ③災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても不安なく学習が継続できることを目指す。
- ④従来までの実践とICTの活用を適切に組み合わせ、教育の質を向上させる。

押さえておくべき答申・通知・資料

- 文部科学省「GIGAスクール構想の下で整備された学校における1人1台端末等のICT環境の活用に関する方針について（通知）」（2022（令和4）年3月3日）
- 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（2021（令和3）年1月26日）の第1部2「(4) 新たな動き」
- 文部科学省（リーフレット）「GIGAスクール構想の実現へ」

応答例

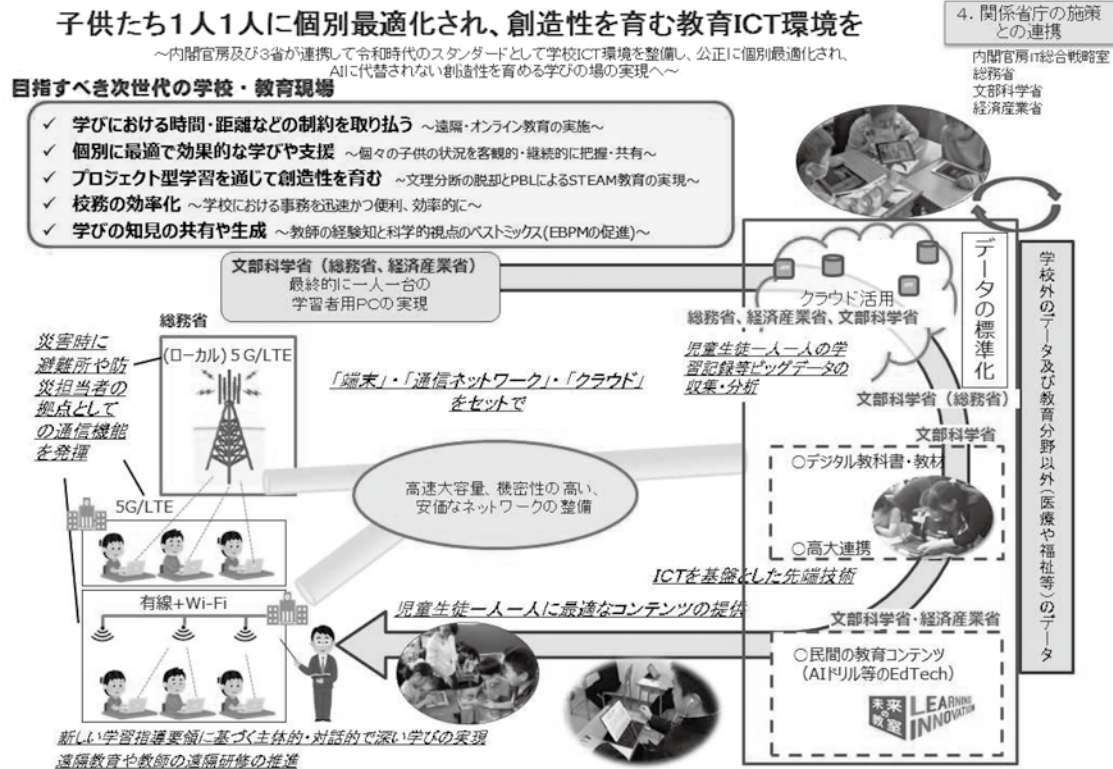
「はい。GIGAスクール構想に関しては知っています。Society5.0時代が到来し、社会全体がデジタル化していくと言われております。その中でGIGAスクール構想とは、学校教育において「高速大容量のネットワーク環境」「1人1台端末環境」を完備することによって、日常的にICT機器を使いこなしながら、子どもたちの学びの質を向上させることです。例えば、災害などで臨時休校になった場合でも、オンライン教育が機能すれば、子どもたちの学習を継続できます。そういう意味でも、GIGAスクール構想はこれまでにないくらい学びを確実に保障すると考えます。」

② 「GIGAスクール構想」が実現されると、学校教育においてどのようなことができると思いますか。

応答のポイント

- ①学習における時間・距離などの制約がなくなる（遠隔・オンライン教育の実施）。
- ②個別に最適で効果的な学びや支援の実現が可能となる（個々の子供の状況を客観的・継続的に把握・共有）。
- ③プロジェクト型学習を通じて創造性を育む。
- ④校務の効率化を図ることにより、働き方改革が促進される。
- ⑤学んだことをお互いに共有し合うことができる。

学校ICT環境イメージ



出典：文部科学省「教育の情報化に関する手引（追補版）」（2020（令和2）年6月）

押さえておくべき答申・通知・資料

- 文部科学省「GIGAスクール構想の下で整備された学校における1人1台端末等のICT環境の活用に関する方針について(通知)」(2022(令和4)年3月3日)
- 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」(2021(令和3)年1月26日)の第1部2「(4)新たな動き」
- 文部科学省(リーフレット)「GIGAスクール構想の実現へ」
- 文部科学省「教育の情報化に関する手引(追補版)」(2020(令和2)年6月)の「第5章 校務の情報化の推進」
「第7章 学校におけるICT環境整備」
- 文部科学省「学校教育情報化推進計画」(2022(令和4)年12月26日)

応答例

- ・「GIGAスクール構想によって、子どもたちは時間や場所に制約されず、どこにいても学びを継続できるようになると思います。また、授業中に教師が黒板で書くべき内容を児童生徒がタブレットで共有できるため、創造的な活動に多くの時間をあてることができるようになります。結果的に、学びの質を向上させることができると考えています。」
- ・「GIGAスクール構想が実現することによって、教師と児童生徒・保護者、教師同士の関係性をより深めることができるのではないかと思います。従来なら、個々に連絡し合わなければならないことも、クラウド機能を効果的に活用することによって、迅速に情報を共有することができるからです。例えば、研修で学んだことを同僚教師で共有し合い、知力を高めるといったことが挙げられます。また、校務もICT環境を効率的に活用することで、教師の働き方改革の促進にもつながると思います。」